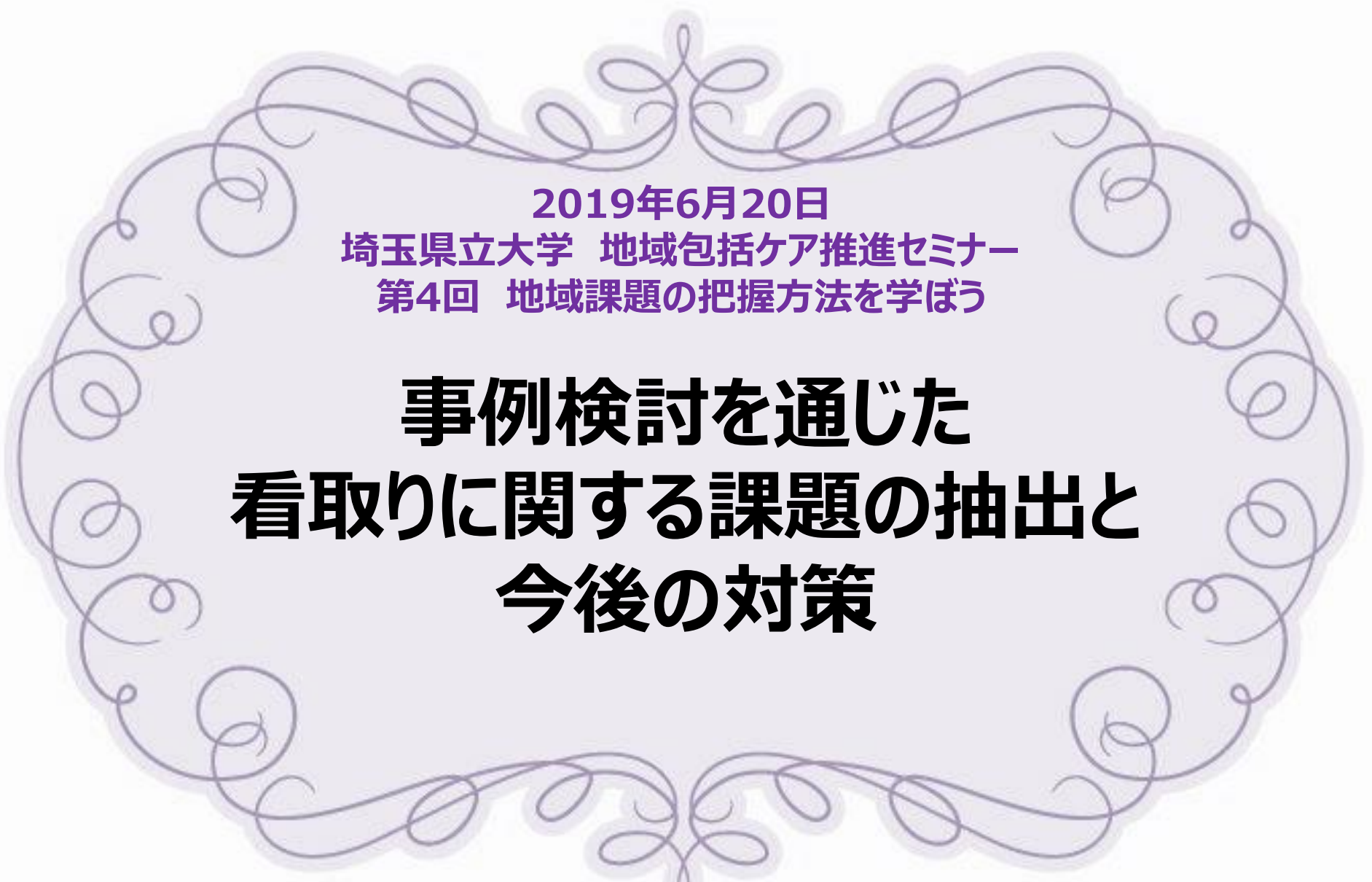




2019年6月20日
埼玉県立大学 地域包括ケア推進セミナー
第4回 地域課題の把握方法を学ぼう

事例検討を通じた 看取りに関する課題の抽出と 今後の対策

埼玉県立大学研究開発センター
研究員 吉田 真季

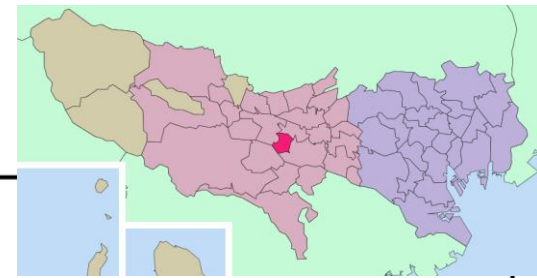


事例検討を通じた課題抽出

国立市の例

国立市の概況

国立病院機構
災害医療センター



国分寺市

東京都
国立市

0 1km
1/21, 100

立川市
立川病院
(国家公務員共済)

都立多摩
総合医療センター

面積 **8.15km²** (全国で4番目に小さい市)
総人口 **75,022人** (2018.10.1推計)
65歳以上 **17,545人 (23.0%)**
人口密度 **9,205人/km²**

老年人口の増加に伴い、要介護者の増加が見込まれる

府中市

日野市

めざす姿・理念の共有

市民

専門職

「医療や介護が必要になっても
住み続けられるまち」をめざす

市民が望む地域医療を、
市民とともに明確化

国立市地域医療計画

行政

地域医療計画の策定プロセス

手順1 「国立市がめざす姿」 の検討

- ・ 情報収集を行い、住民のニーズや現状における充足状況を把握

- ・ 住民アンケート
- ・ 医療・介護施設アンケート
- ・ ケアマネジャーアンケート
- ・ 統計データ分析
- ・ 市民意見交換会
- ・ 救急隊ヒアリング
- ・ 救急病院ヒアリング

手順2 現状・課題の把握 めざす姿の達成に必要な 要素の検討

- ・ 複数の事例検証を通じ、目指したい姿と現状とのギャップを生んでいる課題を抽出

- ・ 市内の事例収集と検討
 - ケアマネジャーの担当事例
 - 地域包括支援センターの事例
 - 市民から寄せられた事例

手順3 具体的目標の設定

- ・ めざす姿の実現に向けて達成すべき目標を整理

- ・ ロジックモデル試案の作成
- ・ ロジックモデルのブラッシュアップ

手順4 具体施策と 評価指標の検討

- ・ 市で取り組む具体的対策を検討
- ・ 進捗を確認するための評価内容を検討

- ・ 国立市担当部局内での検討

*評価については、計画の初年度において、具体的な評価指標及び評価方法を定める予定

なぜ事例分析が有効なのか

地域との適性

- ✓ 小規模な自治体であり、行政・専門職（医療・介護）・市民が互いに「顔の見える関係」にある
- ✓ 地域における課題を各立場から見通せている

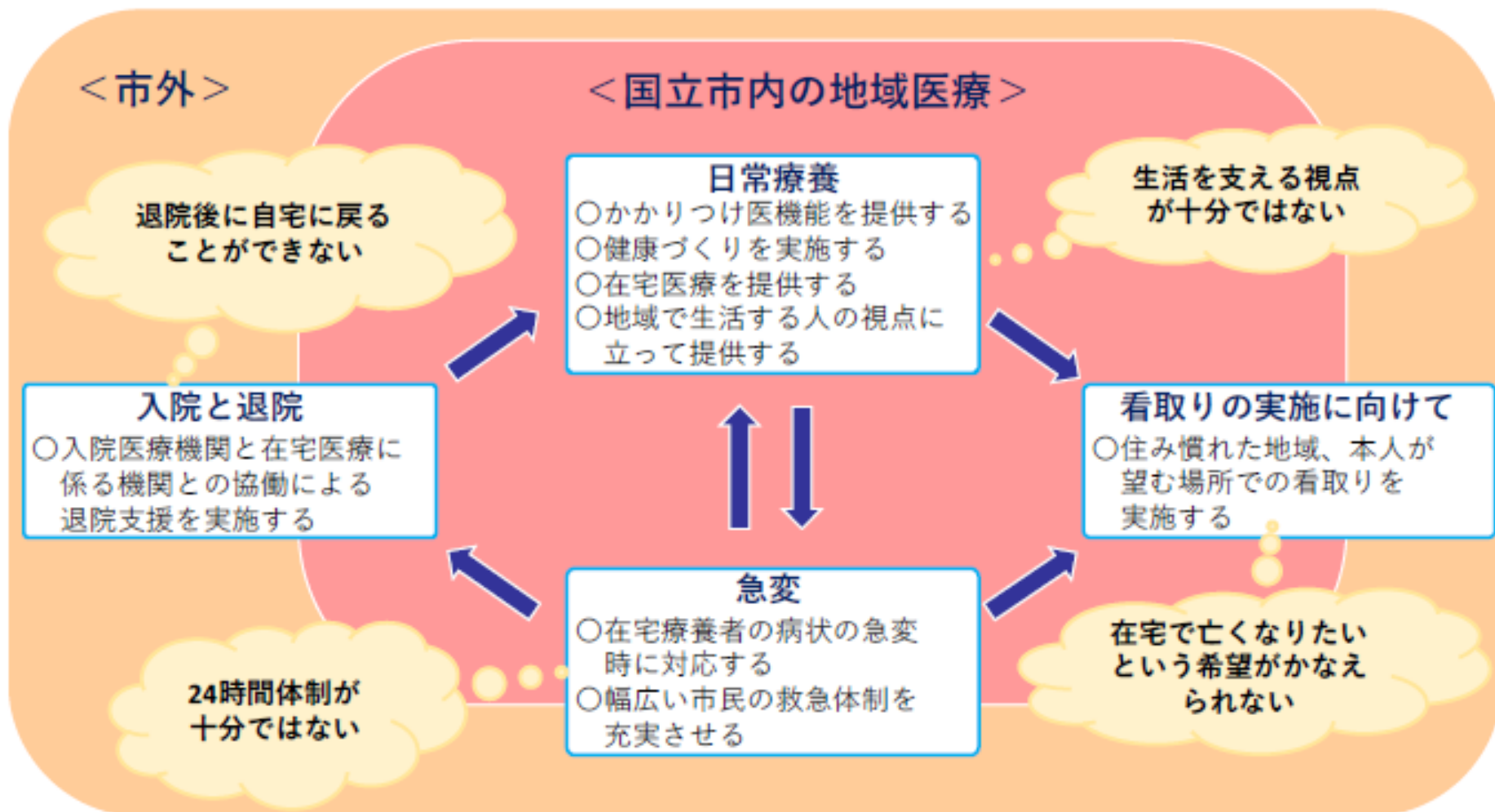
手法としての利点

- ✓ 市民にとって身近でわかりやすい
- ✓ 医療・介護提供者にとって理解しやすい
- ✓ 関係者が「自分事」として当事者意識をもてる

合意形成のしやすさ

- ✓ 各々の立場からの問題意識を持ち寄り、検討を経て、共通のことばで表現することにより、納得感を共有

国立市のめざす姿を実現するための 地域医療提供体制と課題（4場面別）



事例の収集と分析

市民

ケアマネジャー

**地域包括
支援センター**



整理・分析

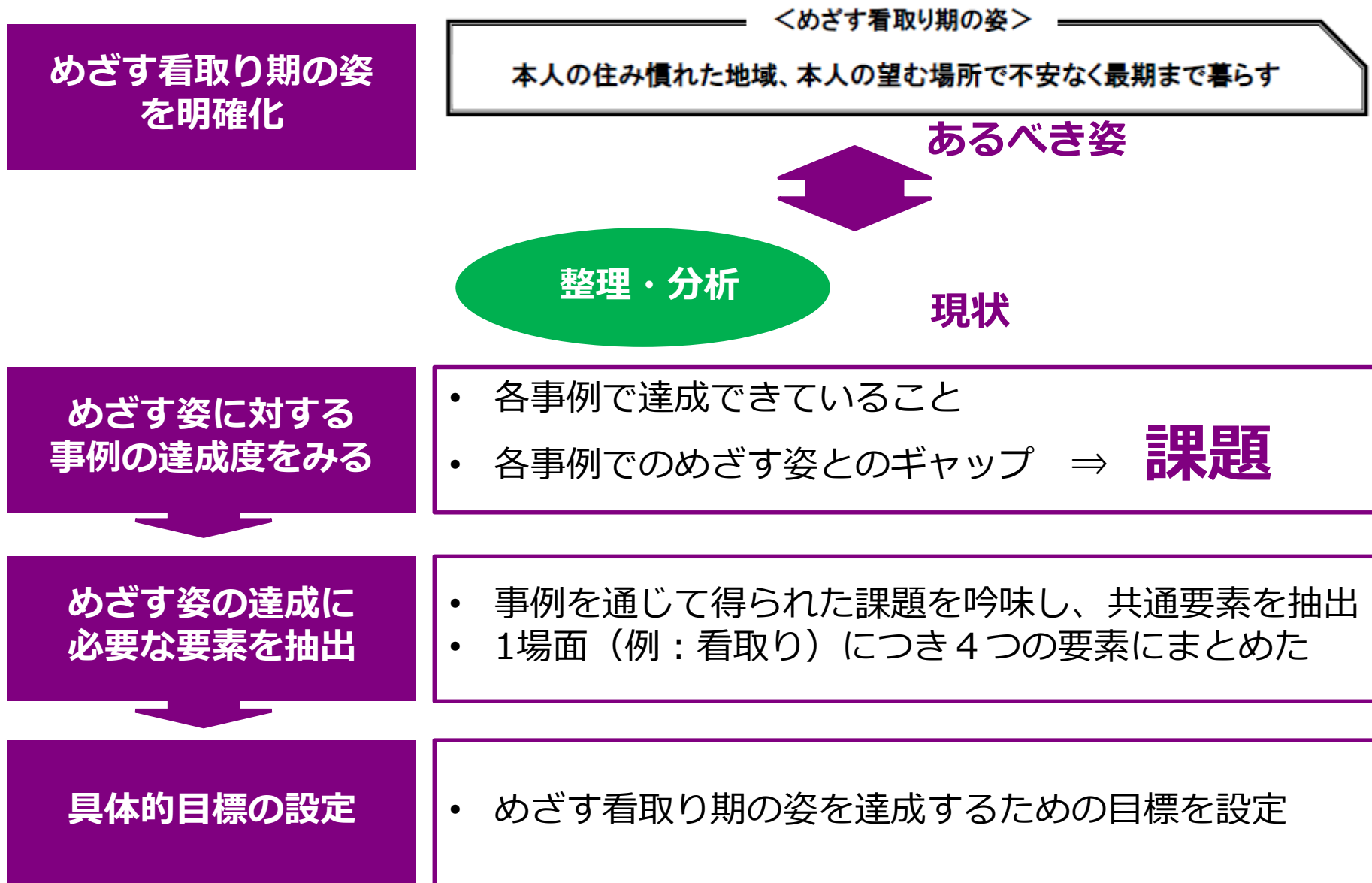


**めざす姿の
達成に必要な
要素**

《メンバー構成》
国立市在宅療養推進連絡協議会代表
医師会会長
歯科医師会会長
薬剤師会会長
介護保険事業者連絡会各部会
（訪問看護部会会長、居宅介護支援部会会長）
学識経験者
行政（関連各部局）

地域医療計画策定検討委員会

事例分析の進め方



**事例1 本人が自宅での最期のときの迎え方について同意をしていたが、
看取り時に本人の意思が家族に伝わらない事例**

（概要）90歳代、女性、最期を過ごすために家族と同居、大腸がんの末期

（経過）

同居家族（娘夫婦・夫）とかかりつけ医とでACP※（医師を含む、家族全員のサイン入り）に取り組み、看取りについて家族で決めていた。最期は検査や延命処置は行わないことを希望していた。別居の息子が帰省中、状態の変化（下血）があり、同居家族が不在だったため、かかりつけ医と連絡が取れないまま救急搬送される。別居の息子もACPにサインし承知してはいたが、普段生活をともにしていなかったこともあり動揺して対応に迫られ、救急搬送依頼をしてしまった。その後、ご本人は自宅に帰れず、病院で亡くなられた。同居の家族は本人の意思に沿うことができなかったことを後悔している。

（本事例で達成できていること）

- ・関係者全員でACPに取り組み、本人と家族の意思を明確にしている

（本事例から見える課題）

- ・本人の意思の決定と共有（家族及び支援チーム）
- ・家族及び支援チーム間での複数回の確認
- ・かかりつけ医の役割
- ・かかりつけ医と病院の連携
- ・がん末期の搬送における判断基準及び救急搬送先の対応
- ・看取り後の家族支援

めざす姿の達成に必要な要素

○家族や医療・介護専門職及び近隣関係者（ボランティアなど）間での、本人の意思の適宜把握かつ共有

○本人が望む看取りを実現するための医療・介護提供体制及び地域支援体制の整備

**めざす姿に対する
事例の達成度をみる**

**めざす姿の達成に
必要な要素を抽出**

注：人物像の一部を脚色するなど、人物が特定されないよう配慮

※ACP（アドバンス・ケア・プランニング）：年齢や病期を問わず、本人が自身の価値観、目標、今後の治療に対する意向を理解・共有することを支援するプロセス（2019年現在、ACPの愛称は「人生会議」となっています）。

事例2 一人暮らしの男性が支援を受けつつ、経過に応じて本人の希望を実現できている事例

（概要）80歳代、男性、胃がん末期、認知症、一人暮らし

1. 本人のこれからの生活に対する意思の表出

（経過 1）

手術による胃の切除が困難な状況。栄養は腸ろう[※]からの摂取と流動食。病院からは退院は難しいと言われていたが、本人には「自分の好きな惣菜を食べたい」、「バスに乗って出かけた」という意向があり、自宅へ戻りたい強い希望を持っていた。その希望をかかりつけ医が受け止め、自宅退院となり、腸ろうを中止した。

（本事例で達成できていること）

- ・かかりつけ医が本人の意思をくみ取り、支援している

（本事例から見える課題）

- ・病院による「治す医療」から、かかりつけ医による「生活を支える医療」への転換

めざす姿の達成に必要な要素

○家族や医療・介護専門職に対する、早い段階からの本人の意思表出

※腸ろう：胃ろうが作れない場合に腸に管を入れて栄養を注入する方法。家での交換が難しい。
管が細いため詰まりやすい。

めざす姿に対する
事例の達成度をみる

めざす姿の達成に
必要な要素を抽出

出所）国立市地域医療計画（2019年3月）

注：人物像の一部を脚色するなど、人物が特定されないよう配慮

めざす姿の達成に必要な要素を整理 ： 4要素

＜事例から抽出されためざす姿の達成に必要な要素＞

- 要素 1：○家族や医療・介護専門職に対する、早い段階からの本人の意思表示
- 要素 2：○家族や医療・介護専門職及び近隣関係者（ボランティアなど）間での、本人の意思の適宜把握かつ共有
- 要素 3：○家族や専門職に対する不安を解消できるような情報の事提供及び十分な理解
- 要素 4：○本人が望む看取りを実現するための医療・介護提供体制及び地域支援体制の整備
 - 24 時間対応のかかりつけ医の存在
 - 地域の身近な支援者の存在
 - 見守り支援体制の構築

＜めざす姿の達成に向けた具体的目標＞

- ① 本人の意思の表出
- ② 関係者間での把握と共有
- ③ 希望に沿った看取りの実施
- ④ 提供体制整備

具体的目標の設定

出所）国立市地域医療計画（2019年3月）

**国立市における
地域医療のロジックモデル
4分野別**

ロジックモデル（因果関係図）とは

- 原因と結果の関係を表す流れ図
- 目的とそれに向けた施策（事業）とを一望できる
- 全体像の共有により論点が明確になり、円滑な議論ができる
- 施策の評価を行う際の基盤となる



「看取り」のロジックモデル



※グリーフケア：身近な人を亡くし悲嘆にくれる人を癒すため、心を開放し気持ちを整理する場を作る試み。
 ※死後カンファレンス：看取り終了後（本人の死後）、本人や家族へ提供した緩和ケアの評価等を行う会議。

参考：「日常療養」のロジックモデル



参考：「急変時」のロジックモデル



参考：「退院支援」のロジックモデル



国立市地域医療計画一生まれてから最期までその人らしい生き方や暮らしを支えるー

国立市では、「医療・介護が必要となっても住み続けられるまちづくり」の実現のため、10年後の「在宅医療のあるべき姿」に向けた「国立市地域医療計画」を策定しました。

今後この計画をもとに、市民が必要とする医療環境を整えるために、専門職と行政、市民が一体となり、一緒に考え、一緒に取り組み、「市民が安心して住み続けられるまちづくり」の実現をめざします。



[国立市地域医療計画 \(PDF：5.6MB\)](#)



[国立市地域医療計画\(概要版\) \(PDF：2.4MB\)](#)

